

## [公表] 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター さんぼみち			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年12月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49人	(回答者数)	28人
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年12月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数)	15人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日			

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基準人員よりも多くの職員を配置し、突発的な事態や個々のニーズに即座に対応できる体制が整っている。	困った際にすぐにヘルプを出し合える関係性の構築や、インカム・ボイス入力等のICT活用により、連携と記録の効率化を両立している。	手厚い配置を活かし、小集団だけでなく個別課題(1対1)の時間をより充実させ、個々の発達段階に合わせたきめ細やかな療育を強化する。
2	連絡帳やおたより、送迎時の対話を通じて、子どもの様子を丁寧に伝え、保護者に安心感を提供できている。	今年度より「おたより」への写真掲載を開始し、文章だけでは伝わりにくい活動の雰囲気や子どもの表情を視覚的に伝えている。	ホームページや連絡網アプリ等を活用し、個人情報に配慮しつつ、日々の活動風景をより頻繁・タイムリーに発信していく。
3	日々の支援をやりっぱなしにせず、職員間で客観的に振り返り、支援の質を高めようとする意識が高い。	支援場面を動画で撮影し、ケース会議等で視聴・分析することで、主観に頼らない具体的な改善策(環境設定や声掛け)を検討している。	標準化されたアセスメントツールの導入・活用を進め、数値や客観データに基づいた支援計画の立案と効果検証を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の構造上、活動スペースに限りがあり、動的な活動と静的な活動(クールダウンや個別学習等)を同時に行う際の環境設定や、雨天時の運動量確保に課題がある。	パーティション等で視覚的な区切りを作ったり、晴天時は近隣の公園等の外部資源を積極的に活用したりして、活動にメリハリをつけている。	今後は、使用頻度の低いスペース(キッチン等)の活用や、近隣の体育館・ホール等の利用も検討し、子どもたちがのびのびと活動できる環境を拡充する。
2	日々の療育支援に注力するあまり、第三者評価の導入や地域の自立支援協議会への参画など、外部の客観的な視点や意見を取り入れる機会が不足している。	納涼祭等の行事を通じて地域住民との交流を図ったり、保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、業務改善に反映させたりしている。	第三者委員の設置検討や地域協議会への積極的な参加を行い、外部機関とのネットワークを構築することで、より開かれた透明性の高い事業所運営を目指す。
3	第三者委員の設置検討や地域協議会への積極的な参加を行い、外部機関とのネットワークを構築することで、より開かれた透明性の高い事業所運営を目指す。	発生した事案については会議で報告し、職員間で注意喚起を行っている。また、感染症対応等のマニュアル整備を進めている。	ヒヤリハット事例を単なる報告で終わらせず、ケース会議等で要因分析を行う時間を設け、具体的な再発防止策を策定・蓄積し、事故を未然に防ぐ体制を強化する。